

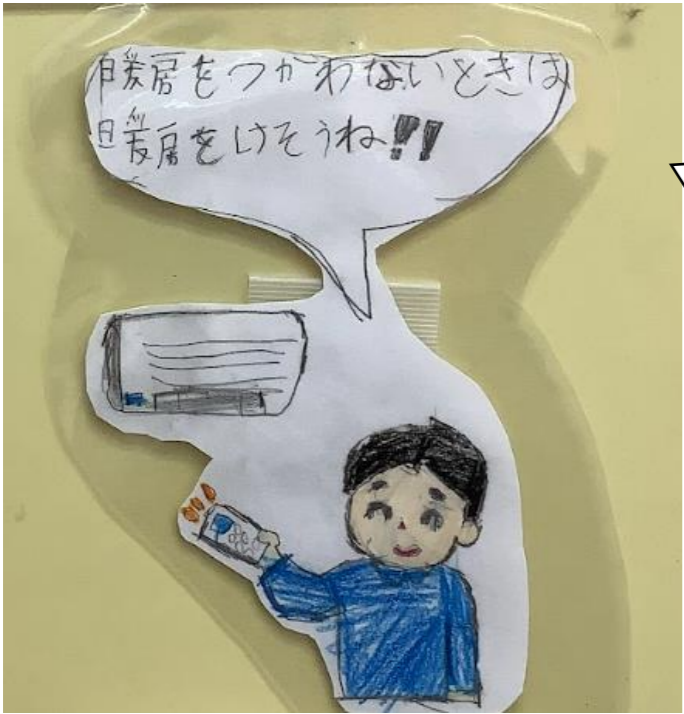
年度:令和7年度
 学校名:茅ヶ崎市立鶴が台小学校

■今年度のグリーンカーテン実施状況
 (朝顔、ゴーヤ、へちまなど)
実施した 実施していない

| 取組テーマ | 取組目標 | 具体的な活動内容 | 担当者 | 活動主体 | 取り組んだこと、その実績 | 1年を振り返って |
|----------------|---|--------------|--------|--------|--|--|
| 環境についての学習 | ◎くらしを取りまく自然を大切に して様々ないのちと向き合う。 ◎地域を愛する心を育てる ◎地域の環境に意識を向けて、 危険を予測して事故防止ができるようにする。 | 1 植物を育てよう | 1~4年担任 | 1~4年児童 | 1~4年生は、野菜や植物を育て、校舎の周りを植物でいっぱいになるような活動を行った。また、育てた花の一部を卒業式の飾りつけにも利用しながら、学校全体の明るい雰囲気づくりに貢献していた。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 多くの学年が、ほかの学年の取り組みに対して、相互に関わりながら活動を行い、活動が学校全体に広がっていったから 【今後の課題】 引き続き、今年度の活動を行っていけるよう、引継ぎ体制をとっていく必要性を感じた。 |
| | | 2 花いっぱいになろう | 1年各担任 | 1年児童 | | |
| | | 3 学区内の危険箇所調べ | 3年各担任 | 3年児童 | | |
| | | 4 | | | | |
| 電気、水、物を大切に使う活動 | ◎無駄な電気や水を使わないように行動できるようにする。 ◎浄水場と水道記念館の見学。飲み水として利用できるまでの流れを理解する。 宮が瀬ダムを見学。 ◎ダムの必要性と水の大切さを学ぶ。 | 1 工夫して生活をしよう | 各学年担任 | 全学年児童 | エコに繋がる行動を呼びかけるために、オリジナルキャラクターを作成し、電気、水道の無駄遣いを軽減させられるよううたった。自分達で作成したキャラクターが学校に掲示されることで「無駄遣いしないようにしよう」という意識付けにつながった。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 自分達で作成したキャラクターを掲示することで主体的に活動している実感をしやすかったから。 【今後の課題】 一部の学年だけでなく校内全体に広がっていけるよう工夫していきたい。 |
| | | 2 水はどこから | 4年各担任 | 4年児童 | | |
| | | 3 廃材を生かした工作 | 各学年担任 | 全学年児童 | | |
| | | 4 エコキャラクター作成 | 4年各担任 | 4年児童 | | |
| 捨てるごみを減らす活動 | ◎ごみを出さないよう工夫すること、リユースの意識啓発。 ◎地域のごみを減らす。 ◎環境事業センターの見学。ごみ減量の必要性について考える。 | 1 ごみを生かして | 各学年担任 | 全学年児童 | 4年生は、パッカー車を呼び、働いている方から直接お話を聞いた。そこでは、ごみ処理の仕方や、今年から始まったごみ袋有料化になった経緯や、これからの未来に向けて自分たちに何ができるか考え、学ぶことができた。 | 【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった 【理由】 現場で働いている方の生の声を聴くことができ、子ども達は主体的に学習に取り組むことができたから。 【今後の課題】 学年問わず、自然環境に対する理解をより深められる機会になるようにしていきたい。 |
| | | 2 ごみはどこへ | 4年各担任 | 4年児童 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |



4年生は、「電気の消し忘れ」「冷暖房の消し忘れ」「水道の出っぱなし」を少しでも軽減できるよう、子ども達一人ひとりがオリジナルキャラクターを作成し、それぞれの教室に掲示に行きました。自分達の作成したキャラクターが学校中に広がったことにより、子ども達自身も主体的に活動に取り組むことができました。



自分達で考えたキャラクターにセリフをしゃべらせることで、伝えたいメッセージを伝えました。各学年の教室、支援級、職員室など、学校の様々な場所にキャラクターを掲示しました。

●学校長(推進責任者)によるコメント

【学校長名】
渡邊 美和

【今後の方向性について】
これまで同様に、体験活動や身近な題材を使うことを通して、子どもたちは環境問題の大切さをより実感することができた。
今回4年生は、エコ活動の意識づけのために「オリジナルキャラクター」を考案し、校内の必要な場所に掲示し、節電や節水について全校児童へ働きかけた。また、資源物を回収する「パッカーくん」に来てもらい学習し、職員の方から「ごみの処理の仕方」や「ごみが有料化になった理由」や、「ごみを出すときに気をつけてほしいこと」等を聞いた。また、環境事業センターの見学では、どれくらいのごみが出され、それらをどうやって処理しているのかを見学し、これからの未来に向けて何ができるのかを改めて考えることができた。
身近なものから学ぶことにより、身近なものに意識が向いてくる。環境学習について低学年から積み上げていくことにより、児童一人ひとりが問題意識を持てるようになるので、今後はそこから発展的な学びへと展開していきたい。また、できる範囲で見学等を実施して、映像ではなく直接見聞きしていくようにしていきたいと考える。



多くの人に意識し、取り組んでもらいたいという想いをもって、総合の時間を使い、学習を進めました。